

「さわやか西中 誰からも愛され、応援される生徒を目指して」

平成27年度 柳津町立西山中学校

学校だより

平成28年1月29日(金)発行 第 39 号

両沼地区中学校生徒造形秀作展覧会開催中

齋藤清美術館

配付文書ですすでにご存じのことと思いますが、26日から齋藤清美術館で、両沼地区中学校生徒造形秀作展覧会が開かれています。

この展覧会は、両沼地区の美術の授業の取り組みを広く公開し、学校教育への理解と関心を深めていただくことをねらいとしています。今年初めての開催です。これまではなかなか生徒の作品に触れる機会を持っていただくことができませんでしたが、ぜひこの機会に各校生徒の力作を鑑賞していただきたいと思います。



美術館での展覧会ということで、展示方法も学校や周辺施設で行われる展示会とはおもしろさが異なります。きちんとした額に飾られた生徒作品は、普段目にするものとはひと味違った印象を受けることと思います。なお、学校からの文書をお持ちいただくと、齋藤清美術館全館の作品が無料で鑑賞できます。これまで「行ったことがない…」という方は、この機会にぜひ足をお運びください。

【第Ⅰ期】1月26日(火)～2月14日(日) 坂下中、柳津中、西山中

【第Ⅱ期】2月16日(火)～3月6日(日)

湯川中、高田中、本郷中、新鶴中、三島中、金山中、昭和中

こちらもお出かけください！

「日本の原風景 会津柳津 西山の魅力」コラッセ福島にて

本校教頭 木島 克典 先生の色鉛筆画の作品展です。皆さんも学校でご覧になったこともあるかと思いますが、あの「色鉛筆画」です。本校で講演いただいたこともある写真家の星賢孝さんの写真パネルも展示されます。

今回の企画では本校のひしストラップの展示・販売もしていただけるとのことです。教頭先生の色えんぴつ画のポストカードも販売予定です。福島市での開催で、少し遠いですが、こちらにもぜひお出かけください。

◇日時 2月6日(土)～7日(日) 10:00～16:00

◇場所 コラッセ福島1Fアトリウム



小学校の先生に授業をしてもらいました

西山小学校、中学校では、連携して子どもたちの学力を高めていこうと、小中間の交流を深めています。

27日には、西山小の小林先生においでいただき、1年生の社会の授業をしていただきました。先生にとっても生徒にとっても、小中の違いを実感できるよい機会になりました。



集会での話題から 語学は音読だ！

高校時代の話ですが、怖い英語の先生がいました。いつも片手にムチを持ち、眉間にしわを寄せ、バリトンの迫力のある声で授業をします。田舎の小さな学校から進学した私は、自分の学力にも自信がありませんし、市部の大きな学校と比べ、自分は遅れているのではないかと、という不安が常にありましたので、その先生の授業はいつも不安でした。

その先生は、基本的に私たちに教えるということをしません。テープレコーダーで英文を流し、一人ひとりを指名して日本語訳をいわせます。当然、答えられない友人は何人もいました。記憶は定かではありませんが、そのたびにムチが飛んでいたような気がします。うまく答える友人もいましたが、すると次に指名される生徒には、「よし、じゃ次！今の日本語を英文にしてみよう！」

指名の順番は座席順でしたので、あたりそうなところを予想して予習してくればいいのですが、その順番を待つ緊張感は並大抵のものではありません。「高校とはすごいところだ…、今までとは違う…。」入った学校を間違ったのではないかと、今後どうしようかと真剣に悩むほどでした。

あるとき、用事があって職員室に行ったときのことで、その英語の先生が、職員室中に聞こえるような大きな声を出しています。周りに話しかけている様子もありませんでしたので、何を話しているのか耳を傾けて聴いてみました。驚きました。教科書の英文を大きな声で音読しているのです。周りの先生も特にそれを気にする様子がありません。先生は、授業前にいつも教科書を音読していたのです。

先生の意外な姿に、私は大変な感銘を受けました。「高校の先生ともあろう人が教科書を読んでいて…。予習をしている…。」と。「先生でも教科書を声を出して読んでいる。じゃあ、オレもやってみよう。」

それ以来私は英語の勉強に音読を加えました。目標は「アメリカ人のようにすらすら読める」ということです。「先生でもやっている」ということが大きな励みになりました。

でもこの「すらすら読める」ということが簡単なようで、それほど容易なことではない。そこで、一文ずつ区切り、「30回読む」という目標に変えました。「30回読んでどうにもならなかったらしょうがない」という開き直りの精神です。

でも、この30回というのが思わぬ効果と呼びました。回数を重ねるごとに、30回読む時間がどんどんどんどん短くなってきます。さらに、若くて頭が柔らかかったせいもあると思うのですが、30回音読していると、頭が覚えようとしなくても口が覚えてしまっている事に気づきました。テストの穴埋め問題や語順の並べ替え問題、英作文問題などでも、考えなくても英文が口について出てくるようになりました。よく小学校の低学年でも、国語の音読をしています、いつの間にか教科書を見なくても文章が出てくるという経験を持った人もいるかと思いますが、その感覚です。

「語学は音読だ！」音読の効果に味を占め、古文の勉強にもこの方法を取り入れました。古文は日本語ですが、現代文とは違います。そこで、「平安時代や室町時代の人が日常会話に使っていたレベルまですらすら読みたい」と考え、英語の勉強と同じように30回音読しました。効果は英語と同じ…。すごく得した気分になりました。語学は人のことばです。やはり口に出して試みるのが大切です。(平成28年1月25日集会)

